



西田小だより

令和6年1月23日

その11 文責:校長 岩井

2学期末の出来事より (12月校報でお伝え出来なかった行事を2つご紹介します)



スケート教室

湖遊館に全校児童移動してスケート教室を実施しました。経験があって上手に滑ることが出来る子もいましたが、初めてだったり、あまり経験がなかったりして、恐々と氷に立つ子もたくさんいました。しかし練習を重ねるにつれ、手摺から手を離し、リンクに向かってチャレンジすることが出来る子たちが増えました。子ども達が楽しみにしている行事のひとつでした。



書初め練習会

外部講師として石川恵美子先生をお招きして書初め練習会を行ないました。普段は教室の限られたスペースで書写を行っていますが、この日は広い体育館で普段は味わえないスペースを使って思い切り字を書くことができました。石川先生からも「普段は教室で小さな紙に書いているけれども、今日は広い場所で友だちと一緒に大きな気持ちで書けますよ。そうしたら普段よりも力強い字になりますからね」とお話しいただきました。そのお言葉どおり、力作がたくさん生まれました。



3 学期スタート！～1 月の様子



1 月 9 日始業式を行いました。式を始める前に、能登半島地震で多くの方々が被害にあい、たくさんの方々が犠牲になりました。犠牲となった方々に全員で黙祷を捧げました。

始業式後には、教室で冬休みの宿題を提出したり、新年の決意を発表したり、3 学期の係を決めたりと、忙しく過ごしていました。学校がまた動き出しました。



かるた大会

1 月 11 日、かるた大会を行ないました。1、2 年生はソーシャルスキルかるた、3 から 6 年生は百人一首に挑戦しました。子ども達は上の句、下の句を日々覚えて、大変意欲的に勉強してこの大会に臨みました。1、2 年生は 2 年生教室での対戦、3 年生以上は体育館でリーグ戦から決勝戦へと、どちらも熱戦となりました。西田小の伝統行事の一つです。

1 月には大学入学センター試験がありました。毎年この時期子ども達が必死で取り組みます。みんながんばれよと、なぜかドキドキしながら毎年応援しています。そんな受験期に、以前読んだ「落ちないリンゴ」の話を思い出しました。（「落ちないリンゴを売れ！」箱田忠昭）

今から 30 年ほど前、青森で収穫を前にしたリンゴが台風被害にあい、9 割以上が落ちてしまったそうです。一生懸命に育てたリンゴたちが駄目になってしまったことに農家のみなさんは落胆し、そして収入も大幅に減ってしまったことに絶望したそうです。しかしこの苦境をあるアイデアが救いました。それは、落ちなかった 1 割ほどのリンゴを「落ちないリンゴ」と名づけ縁起物として売ることでした。そうしたら普通ではありえない 1 個 1000 円の高値にも関わらず、受験生たちがたくさん買ってくれるなど飛ぶように売れ、完売したそうです。「落ちたリンゴ」にがっかりするだけではなく「落ちなかったリンゴ」「そこにあるリンゴ」にしっかりと目を向けること、視点を変えることによって活路を切り拓いたという話です。

この「落ちないリンゴ」の話は、子育てに通ずるものがあるかなと思います。

「こうなったらいいのにな」とか「こうならなくて残念」と無いものねだりをして、つい人をうらやんだり、残念がったりする自分があるように思います。自分の子育てを振り返ってみても「友だちの〇〇さんはできるのに我が子は出来ないな」と、他の子と比べてしまい、心無い言葉をかけて我が子をたくさん傷つけたことがあったと思うことがあります。このことは「落ちてしまったリンゴ」にしか目が向かず、嘆いているだけのことと同じだったと思います。

我が子が持っている良さはなんだろう、何が得意でどんなことを伸ばしてやれるだろうと、子どもを本当に愛してしっかりと見つめ向き合うことで、子ども達は自己肯定感を高めながら、その可能性に挑戦し、持てる才能を伸ばせるのではと、この「落ちないリンゴ」の話から思いました。

西田小学校では 50 名の子ども達が日々がんばっています。この子たち一人一人をしっかりと見つめ、子どもたちの良さをしっかりと伸ばせるよう、教職員一同、力を合わせてがんばっていきます。

今年もよろしくお願いします。